

＜藤山台中学校区＞  
学校統合に向けた第2回意見交換会 次第

日 時 令和7年11月29日（土）  
午前10時から正午まで

場 所 東部市民センター 多目的室

- 1 開会
  
- 2 学校統合に向けた検討について
  
- 3 意見交換
  
- 4 その他
  
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

# I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数については、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

## 1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

### (1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

### (2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

## 2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 1 年生	35 人
中学 2 年生及び中学 3 年生	40 人

### 3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

#### (1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

#### (2) 規模が小さい学校のデメリット

##### ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

## イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会などが成立しない。)
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

## ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

## (3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

#### 4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

#### 5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区  
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区  
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区  
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区  
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区  
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

#### 6 これまでの取組

- (1) 令和7年2月  
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月  
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月  
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月  
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月  
第1回意見交換会の開催

## Ⅱ 児童生徒数推計について

令和22年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が1学級の「過小規模」と推定されます。

### (1) 藤山台中学校 ※R15から「小規模」、R16から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	60	2	70	2	59	2	51	2
2年	55	2	59	2	69	2	58	2
3年	75	2	54	2	58	2	68	2
合計	190	6	183	6	186	6	177	6

### (2) 藤山台小学校 ※R11から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	42	2	42	2	42	2	39	2
2年	58	2	41	2	41	2	41	2
3年	43	2	57	2	40	2	40	2
4年	50	2	42	2	56	2	39	2
5年	55	2	49	2	41	2	55	2
6年	69	2	54	2	48	2	40	2
合計	317	12	285	12	268	12	254	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
43	2	56	2	42	2
50	2	42	2	55	2
57	2	49	2	41	2
150	6	147	6	138	6

R19 (過小)	
生徒数	学級数
27	1
28	1
27	1
82	3

R22 (過小)	
生徒数	学級数
23	1
21	1
29	1
73	3

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
35	1	35	1	31	1
38	2	34	1	34	1
40	2	37	2	33	1
39	2	39	2	36	2
38	2	38	2	38	2
54	2	37	2	37	2
244	11	220	10	209	9

R22 (過小)	
児童数	学級数
19	1
26	1
20	1
23	1
21	1
27	1
136	6

### Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】

児童アンケート…【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数… 398 人（保護者 180 人、児童（3～6 年生）172 人、地域の方 46 人）
- ・ 中学校回答者数… 266 人（保護者 102 人、生徒 164 人）

#### 1 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校の保護者で約 7 割、地域の方で約 9 割、中学校の保護者で約 8 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」と回答した方 … 賛成

「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

##### ① 小学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台小	【保護者】	66.6%	26.7%	6.7%
	【地域】	86.9%	13.1%	0%

##### ② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台中	【保護者】	77.5%	19.6%	2.9%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台小	【保護者】	91.7%	7.5%	0.8%
	【地域】	100%	0%	0%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
藤山台中	【保護者】	94.9%	3.8%	1.3%

## 2 複数学級を望む声について

1学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

### 【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **98.3%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **65.0%**

### 【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **95.9%**

### 【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **100%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **66.7%**

### 【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **98.2%**

### 3 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、子どもたちの登下校や、多くの子どもたちによる人間関係の広がりを重要と考えています。

#### 【小学生】

##### Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 **50.6%**
- ・「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」 **42.4%**

#### 【中学生】

##### Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **56.7%**
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 **40.9%**

#### 【地域】

##### Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.7%**
- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 **56.5%**

### 4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりを重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

#### 【小学生保護者】

##### Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **60.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **53.3%**

#### 【中学生保護者】

##### Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **64.7%**
- ・「幅広い部活動やクラブ活動が存在し、活発に活動していること」 **52.9%**

#### 【地域】

##### Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 **87.0%**
- ・「学校と地域との連携が図られること」 **30.4%**

## 5 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

### 【小学校保護者】

#### Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.5%**
- ・「環境変化による子どもへの影響」 **22.2%**

#### Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **58.9%**
- ・「登下校にかかる時間」 **29.4%**

### 【中学校保護者】

#### Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **53.9%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **24.5%**

#### Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **42.2%**
- ・「登下校にかかる時間」 **41.1%**

## IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問がありました。

学校名 (開催日)	藤山台中学校 (9月22日)	藤山台小学校 (10月15日)
参加者数	6人	18人
質問・意見 ( ) は件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合に関することについて (5)</li> <li>・今後の具体的な検討の進め方について (3)</li> <li>・アンケートについて (3)</li> <li>・過大規模校への対応について (2)</li> <li>・市の考え方について (1)</li> <li>・学校選択制について (1)</li> <li>・1学級の人数について (1)</li> <li>・他市の事例について (1)</li> <li>・避難所について (1)</li> <li>・学校施設の改修について (1)</li> <li>・地域の活動について (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の考え方について (3)</li> <li>・魅力ある学校づくりについて (3)</li> <li>・授業の内容について (2)</li> <li>・今後の具体的な検討の進め方について (2)</li> <li>・1学級の人数について (1)</li> <li>・その他の市の施策について (1)</li> <li>・過小規模校の調査・検証について (1)</li> <li>・先生の意見について (1)</li> <li>・統合に関することについて (1)</li> <li>・過去の藤山台小の統合について (1)</li> <li>・学校選択制について (1)</li> <li>・アンケートについて (1)</li> <li>・他市の事例について (1)</li> <li>・通学について (1)</li> <li>・PTA 役員との意見交換について (1)</li> </ul>

※意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

## 藤山台中学校区意見交換会 質疑応答一覧

### 1 藤山台中学校

No.	質 問	回 答
1	市の1学年に2学級以上必要という考え方は変わらないのか。	1学年に複数学級がありクラス替えができることで、子どもたちが新しい人間関係を築き子どもたちの社会性が成長することや、集団で行う授業が実施できることなどのメリットがあります。また、教員が1学年に複数配置されることで、教員が切磋琢磨する環境が生まれ、その好影響が子どもへフィードバックされることも考えられます。
2	学校選択制について議論することはあるのか。春日井市では、一部の学校で先進的な教育を実施していることから、学校を選択できないことが公平な教育を受けることができないと考えられるのではないのか。	本市では、原則、居住地によって学校を指定しています。学校選択制は、学校ごとに人数の偏りが生じるなどの課題があることから検討していません。 ICT等の先進的な教育を実施している学校もありますが、市内の学校には取組の成果の水平展開を進めています。また、いずれはその取組がスタンダードになり、学習指導要領が変わっていくと考えています。
3	小学校に関して、1学級あたりの子どもの数を減らして、学級数を増やす対応を取ればよいのではないのか。	本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らし学級数を増やしても、教員が配置されないことから、市独自の基準で実施することは困難です。
4	中学校は統廃合を行い、小学校は現状のままという選択肢はあるのか。	現状、統廃合ありきで考えていません。地域コミュニティの実情や地域の特性などはそれぞれ異なるので、今後皆様と検討を重ねていきたいと考えています。
5	地域の方が現状のままでよいという意見であった場合、学校を残すこともあるのか。	アンケート結果からは、多くの方が市の取組に賛成しています。ただし、今後の検討において、皆さまの考えが変わることもあるかもしれませんので、選択肢としてはあると考えています。
6	今後の方向性を示すタイミングはいつ頃を考えているのか。	今回の意見交換会は、学校の適正規模や適正配置の取組に対し、まずは様々な立場の方の意見をお聞きしたいと考え開催しました。いただいた意見を踏まえて、より具体的に今後の方向性を示したいと考えています。時期は未定ですが、スピード感をもって取り組んでいきます。
7	大規模校に通っている子どもの保護者から、教員の目が行き届いていないという話を聞いた。学校の適正規模等について考える際には、いろいろな方の意見をもっと聞くべきだと思うので、適切にアピールしてほしい。未就学児の保護者などにもわかりやすい説明に努めてほしい。子どもが中学校を卒業して学校に関係がなくなってしまう方や地域の方にも周知する方法を考えてほしい。	検討にあたっては、様々な方の意見をいただきたいと思っています。次回は、中学校区単位で意見交換会の実施を考えており、その際は、より多くの方が参加しやすいように土曜日や日曜日に開催することを考えています。日程が決まりましたら、改めてご連絡します。

No.	質 問	回 答
8	近隣地域の情報を提供してもらえると保護者の視野も広がるので、適切な周知をお願いしたい。	近隣市の状況においては、小牧市が篠岡地区で学校統合に向けた動きが進んでいます。また、他の県内他市でも検討が進んでいると聞いています。今後の検討にあたり、このような情報も提供していきます。
9	春日井市では統合ありきで考えているのか。今後、ニュータウン全体で学校を統合することや、小中一貫校にするといった考えはあるのか。	統合ありきではありません。 将来的にはニュータウン地区全体での子どもの人数は減少すると考えており、ニュータウン全体を俯瞰して考える時期がくると考えています。 また、小中一貫校を導入するかは、導入することによるメリット、デメリットなどを慎重に協議していきたいと考えています。
10	仮に統合すると考えた場合、新しい校舎を建てるのか、古い校舎を改修するのか何か基準はあるのか。	具体的な基準はありません。統合となった場合は、既存の校舎をそのまま活用する方法、既存の校舎を大規模改修して使う方法、新しく校舎を建設する方法が考えられます。今後、地域の方からの意見や市の財政状況などを踏まえ、検討していきます。
11	現在、部活を通じて他校との交流がなされている。仮に統合になった場合、事前に交流をしっかりと行うなどといった考えはあるのか。	具体的には決まっていますが、仮に統合となった場合、子どもたちがスムーズに対応できるように事前に交流の場を設けるなど検討が必要と考えています。
12	学校には避難所としての機能がある。仮に統合となった場合、地域に避難所がなくなることについて、市はどのように考えるのか。体育館の代替について、案はあるのか。	学校は防災などで地域の重要な拠点となっていることから、仮に統合する場合でも、地域の方が災害時にこれまでと比べてなるべく不便にならないように検討したいと考えております。
13	地域の方のアンケートについて、反対の割合が0%であったが、回答人数が46人であった。地域の方はどのような基準で選び、何人の方に送ったのか。	地域アンケートは、案内チラシを7月号の広報に合わせて、坂下、ニュータウン地区の約25,000世帯に配布し、6月26日から7月13日の期間で実施しました。
14	地域アンケートは、対象地区全体で何人回答されたのか。	436人です。
15	今回のアンケートの中で、少人数学級の方が良いという意見はなかったのか。	「学校の規模や配置を見直す場合に心配なこと」の質問では、多くの方が登下校のことを心配されていましたが、他に、きめ細かな教育が受けられなくなるなどの意見がありました。
16	中学校の校舎を安全できれいにしてもらいたい。どれくらい改修するのにかかるのか。	基本設計、実施設計をした後に工事をすることから、5年程度は必要と考えています。
17	統合が決定すると、現在の地域での活動はどうなるのか。	統合された場合は、一つの新しい集まりになると考えますが、今までの活動がなくなるわけではないです。地域によってそれぞれの良さがあるので、先進的に実施している活動を水平展開することや、学校と地域が引き続き協力し合うことが必要だと考えています。
18	各地区で特性が違う。藤山台地区と近隣の地区が合同で話を聞くことができる機会を作ってほしい。	今後の進め方について、年内に藤山台小学校を含めた藤山台中学校区の意見交換会の開催を考えています。その後、保護者や地域の代表の方、学校関係者を含めた協議会のようなものを立ち上げて検討を進め、状況に応じて、他の地区との合同で意見交換できるような機会も開催したいと考えています。

No.	質 問	回 答
19	<p>(意見)            過大規模校になっている学校もある。まずは過大規模校を解決してから過小規模校を解決するべきと考える。</p>	
20	<p>(意見)            小規模校の関係者だけに意見を聞くのではなく、過大規模校など他の学校の方にも意見を聞いた方が良いと思う。</p>	

## 2 藤山台小学校

No.	質 問	回 答
1	押沢台小学校の学級数も少ないが今回の対象には入っていないのか。	検討の対象です。
2	きめ細かな教育のためにも 35 人学級の基準で学校の適正規模を考えるのではなく、1 学級あたりの人数を減らして考えればよいのではないのか。	本市の 1 学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学校 1 年生は 35 人、中学校の 2、3 年生は 40 人としており、その基準をもって教員が配置されています。1 学級あたりの人数を減らして学級数を増やしても、教員が不足するという問題が起きるため、難しいと考えています。
3	小中学校の適正な規模等に関する検討だけでなく、子どもの数を増やす施策は考えていないのか。	現在、ニュータウン創生課が中心となって、ニュータウンに関する施策に取り組んでいます。また、市では子育て支援にも力を入れており、こどもの家やなかよし教室の充実などの施策に取り組んでいます。それ以上に少子化が進んでいる現状があります。ニュータウン施策と子どもたちの教育環境を充実させるということを同時並行で進めていきたいと考えています。 瀬戸市では、複数の学校を統合した「にじの丘学園」ができたことにより、人口が増えていることを聞いています。本市も人が集まるような魅力的な学校を皆様と一緒に作りたくと考えています。
4	ニュータウン地区の人口増加について、ニュータウン創生課だけに任せるのではなく、教育委員会も考える必要があると思う。	ニュータウン創生課だけに任せるわけではなく、教育委員会としてもニュータウン施策の一つとして、魅力ある学校づくりを考えています。
5	魅力ある学校という概念だけでなく、具体的なことを教えてほしい。	現時点では、皆様の意見を聞く段階と捉えており、「にじの丘学園」のような小中一貫校も、魅力的な学校をつくるための一つの手段として考えています。今後、皆様と協議し一緒に考えていきたいと思っているので、今の段階で案を示すということは難しいです。
6	藤山台中学校と藤山台小学校を小中一貫校のような形での運用はどうか。	藤山台中学校と藤山台小学校の児童生徒数推計では、小学校、中学校ともに 1 学年に 1 学級になると推計しています。本市は、各学年でクラス替えができる学校規模が必要という考えで取組を進めています。仮に小中一貫校にしても、クラス替えのできない学年があることから難しいと考えています。
7	探究的な学びを通して個性を伸ばし、社会で活躍できる人材を育ててほしい。	藤山台小学校と藤山台中学校は ICT 教育を通して先進的な教育を実施しています。藤山台地区をモデルとして、他の地区の学校にも展開したいと考えています。

No.	質 問	回 答
8	統合するとなった際のスケジュールを教えてください。	<p>現時点で統合ありきではないということをご理解いただきたいと思います。</p> <p>今後のスケジュールについては、今回、学校ごとの意見交換会で皆様から意見をいただき、次は藤山台中学校区全体で2回目の意見交換会の実施を考えています。その後については、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成される協議会のようなものを立ち上げ、具体的な検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとすると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要になると考えています。</p>
9	過小規模校と適正規模校における人間関係や教育などの違いについて調査や検証はしているのか。	<p>過小規模校を経験した先生からは、中学校に進級する際、急にクラス数が増えるため適応が難しい子どももいると聞いています。また、瀬戸市で実際に複式学級の担任を経験された先生からのお話では、環境変化に適応できるように中学校や人数の多い学校と交流し、学ぶ体験をする取組を行っているそうです。</p> <p>調査や検証について、小規模校の児童一人ひとりの心の成長を把握していないので、先生の声を参考にしています。</p>
10	学校の先生方に意見を聞くことで、現場で何が困っているのかなど具体的に知ることができると思うので是非検討してほしい。	<p>検討の対象となっている学校の先生からお話を聞いたりしています。これからも小規模、過小規模校の先生からの意見を聞き、皆様とも情報共有していきたいと考えています。</p>
11	小中学校の適正な規模等に関する検討はいつから始まったのか。また、いつまでを期限と考えているのか。	<p>検討を始めたのは昨年度で、令和7年2月に、市の基本的な考え方をまとめて公表しています。</p> <p>いつまでに実施するという事は明確に決めていません。今回対象になっている中学校区については、今の児童生徒数の推計を見ると、中学校区全体として、小規模、過小規模になると推計しているので、市としては早く取り掛かりたいと考えています。ただ、市が独断で進めるのではなく、皆様と議論を重ねて、意見がまとまった地区から可能な限り早く着手したいと思っています。</p>
12	藤山台小学校の校舎は比較的新しいが、学校の適正な規模等に関する検討が進んで、校舎が使用されなくなることはあるのか。	<p>仮に統合するとなった場合、どこの校舎や学校用地を使うということは今後検討していきたいと考えています。藤山台小学校を引き続き使用するかどうかは、現時点ではお答えできませんが、新しく機能が充実している学校なので、有効活用する方法を考えなくてはならないと思います。</p>
13	過去に藤山台小学校が3校統合された際は、現在のような児童数推計になると予測できていなかったのか。	<p>少子化の進行が予測以上に速く、現在の児童数になるとは想定できませんでした。</p>

No.	質 問	回 答
14	<p>越境通学を可能にしてほしい。実現できれば、他の市にはない春日井市の大きな特徴となると思う。また、不登校の子どものことを考えて、不登校の子どもたちが集える場所を提供してほしい。</p> <p>一番意見を出すことができる、保護者が意見交換会に来ていない。適正規模や適正配置などの言葉が難しく感じるため、わかりやすく表現してほしいと思う。</p>	<p>学校選択制について、通学区域の見直しなどは今回の適正規模の検討に合わせて慎重に考える必要があると思います。また、不登校の問題については、本市としても問題意識を持っており、適正規模の課題とは別にしっかりと検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>適正規模や適正配置などの言葉について、保護者の方にアンケートを取らせていただいたときは「魅力ある学校づくり」とさせていただきました。ご意見のとおり、適正規模や適正配置だとわかりにくい方も多いと思います。今後は、皆様が理解しやすいような表現を心掛けていきます。</p>
15	<p>藤山台小学校、藤山台中学校はICT教育に力を入れているが、ICTだけでなく実際に字を書くことや、紙の教科書で勉強するなどの経験も必要だと思う。</p>	<p>一人一台端末が入ったタイミングで新型コロナウイルス感染症が流行したため、接触機会を減らしながら子どもの教育環境を守ることが大きくクローズアップされました。ICTを活用した教育だけでなく、自分で字を書いて紙の教科書を使うといった経験も大事だと思います。ICT と体験的な活動のどちらも必要であり、両立できるように取り組んでいきたいと思っています。</p>
16	<p>春日井市で子どもの権利条例が作成されつつあるが、子どもの意見はどの程度反映されているのか。また、きめ細かな教育や通学距離について不満を持つ保護者の意見が資料には書かれていないので、反対と考えている人の理由が知りたい。</p>	<p>学校の適正な規模の検討を進めるにあたって、保護者の方に加えて、小学校3年生以上の子どもたちにも、学校を通じてアンケートを実施しました。本日の資料の中では一部抜粋という形でお示しさせていただいておりますが、詳しい内容は市ホームページに掲載しているのでそちらをご確認いただきたいと思います。</p> <p>市が取組を進めるにあたり、保護者の方からの反対の意見として、「登下校の時間や距離に変化があること」と答えた方が反対の方のうちの58.4%でした。また「環境変化による子どもへの影響があるから」と答えた方は33.3%、「きめ細かな指導が受けられる可能性があるから」と答えた方は8.3%でした。藤山台小学校で反対と答えた方の理由はこの3つでした。</p>
17	<p>新聞で小牧市の篠岡地区で段階的に再編の検討が進んでいると知った。春日井市の隣に位置する小牧市も瀬戸市も、小中一貫校の検討が進んでいる。そういった話を聞くと、規模の小さい学校できめ細かな教育ができる環境も重要だと思う。他市の状況を春日井市はどのように捉えているのか。</p>	<p>小牧市や瀬戸市とは情報交換をしています。学校規模という観点からは、両市とも現状の学校規模が小さくなってきており、児童生徒数の推計から1学年1クラスになるという状況を踏まえ、統合という手段を使って一定の学校規模を確保しようと検討を進めており、本市と同じ方向性であると認識しています。</p> <p>小中一貫校については現時点では明確なビジョンを持っていませんが、今後小中一貫校や義務教育学校のメリット、デメリットをお示ししながら、皆様と協議していきたいと考えています。</p>
18	<p>子どもに藤山台小学校の適正な規模について話したら、1クラスになってクラス替えがなくなることや不安がっていたが、通学距離が長くなることも心配していた。</p> <p>通学の際、子どもの負担を減らせるような工夫を一緒に考えてほしい。</p>	<p>アンケートにおいて、保護者の半数以上が登下校に関することを心配していました。市としても子どもたちの負担が増えないようにするため、バスを含めた通学手段などの検討をする必要があると考えています。</p>

No.	質 問	回 答
19	<p>4月から5月にPTA役員への説明会があったということだが、その時にどのような意見があったか。</p>	<p>PTA役員への説明会では、「現状子どもの数は少ないが仲良くできている。人数が多くなると、先生の目が行き届かなくなりトラブルが発生することが不安。」との意見がありました。こちらについては、「子どもの数が多くなるということは、配置される教職員も増えるので、先生も意識して、十分に目が届くような体制を整えていきます。」とお答えしています。</p> <p>また、「以前、藤山台小学校を統合した際、現在の人口減少を見据えていなかったのか。」との意見がありました。この意見には、「当時はここまでの減少を予測できていませんでした。」とお答えしています。</p> <p>「藤山台地区の団地が今の時代のニーズに合っておらず、空き家だらけである。人口流入のような施策をURに働きかけてほしい。」や「藤山台小学校はICT教育に注力しているが、藤山台中学校はどうか。」といった意見もいただいています。</p> <p>他にも、藤山台中学校について、「校舎やトイレが古いので改修工事をしてほしい。」など、中学校の環境を改善してほしいといった意見を多くいただきました。</p>
20	<p>未就学児の保護者を多く加えて協議会を開催してほしい。</p>	<p>アンケートの際は、保育園や幼稚園に通っている未就学児の保護者にも協力していただきました。今後、協議会を設置する際にも未就学児の保護者に参加していただける体制を作っていきたいと考えています。</p>
21	<p>各家庭が判断して好きな学校に通わせることができれば良いと思う。</p> <p>またICT教育を春日井市は全面的に押し出しているが、体験的な学習をもっと増やして、特色ある学校をつくってほしい。</p>	<p>将来的にどのようにしていくか、現状で決定事項はありませんが、保護者や子どもが自身で学校を選び、満足して通うというのは1つの手段ではあると思います。ただ例えば、市の西部地区に住んでいる人が東部地区の学校を選んだ際に、市が子どもを学校まで連れていくといった対応は難しいので、通学に関する課題はあると考えられます。他にも、例えば藤山台小学校が家から近くても、人数が多いため入学することができないといった問題が起こることも考えられます。</p> <p>学校選択制も貴重な意見としていただいて、地区の状況や課題を研究し、より良い教育環境を目指していきます。</p>

## V 本市の考え方について

「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」に「意見交換会」での意見も踏まえ、藤山台中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

### 1 児童生徒数推計

- (1) 令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えのない環境になると推定されます。

### 2 アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関する多くのことが心配しています。

### 3 地域の特性

- (1) ニュータウン地区内で、藤山台中学校区は岩成台中学校区、高森台中学校区と接しています。藤山台中学校は、直線距離で、岩成台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 1.5 km の距離に位置しており、岩成台中学校が最も近い距離にあります。
- (2) 平成 25 年 4 月に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成 28 年 4 月に西藤山台小学校を統合しました。現在、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校です。

### 4 意見交換会

- (1) 参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方や市の考え方についての質問が多くありました。また、魅力ある学校づくりや他市の事例についてなど、様々な質問がありました。



**藤山台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように隣接する中学校区との学校統合に向けて検討を進めます。**

#### <検討にあたって>

- 1 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していきます。
- 2 隣接する中学校区として、岩成台中学校区を対象に検討していきます。
- 3 岩成台中学校区と合同の意見交換会や懇談会の開催を検討します。
- 4 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討していきます。

※ このページは、製本する際に、見開きで見やすい構成とするため、白紙のページと  
しています。

## 【参考資料】

### 1 児童生徒数及び学級数の推計

#### (1) 藤山台中学校区、岩成台中学校区の合計

##### ア 藤山台中学校、岩成台中学校の合計

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	140	4	161	5	148	5	140	4
2 年	130	4	138	4	159	4	146	4
3 年	155	4	128	4	136	4	157	4
合 計	425	12	427	13	443	13	443	12

##### イ 藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計

学 年	R 7 (大)		R 8 (大)		R 9 (大)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	119	4	114	4	115	4	106	4
2 年	131	4	118	4	113	4	114	4
3 年	132	4	130	4	117	4	112	4
4 年	141	5	131	4	129	4	116	4
5 年	139	4	141	5	130	4	128	4
6 年	151	5	138	4	141	5	129	4
合 計	813	26	772	25	745	25	705	24

※ R 19 までは、R 7 の 0 歳から 5 歳までの年齢別人口に基づき推計。

R 22 は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
135	4	126	4	118	4
138	4	133	4	124	4
144	4	136	4	131	4
417	12	395	12	373	12

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
64	2
82	3
84	3
230	8

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
54	2
50	2
60	2
164	6

R11 (適正)		R12 (適正)		R13 (適正)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
101	3	89	3	68	2
105	3	100	3	88	3
113	4	104	3	99	3
111	4	112	4	103	3
115	4	110	4	111	4
127	4	114	4	109	4
672	22	629	21	578	19

R22 (適正)	
児童数	学級数
50	2
55	2
56	2
59	2
55	2
60	2
335	12

(2) 高蔵寺ニュータウン地区の他中学校区

ア 高森台中学校区

(7) 高森台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	99	3	78	3	95	3	89	3
2 年	92	3	98	3	77	2	94	3
3 年	94	3	91	3	97	3	76	2
合 計	285	9	267	9	269	8	259	8

(4) 高森台小学校 ※R13まで「小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	34	1	32	1	32	1	36	2
2 年	36	2	35	1	32	1	32	1
3 年	41	2	37	2	36	2	32	1
4 年	38	2	42	2	38	2	37	2
5 年	39	2	39	2	43	2	39	2
6 年	34	1	40	2	40	2	44	2
合 計	222	10	225	10	221	10	220	10

(5) 中央台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	23	1	16	1	13	1
2 年	27	1	21	1	23	1	16	1
3 年	29	1	27	1	21	1	23	1
4 年	22	1	29	1	27	1	21	1
5 年	33	1	22	1	29	1	27	1
6 年	21	1	33	1	22	1	29	1
合 計	153	6	155	6	138	6	129	6

(1) 東高森台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	18	1	16	1	21	1	17	1
2 年	22	1	18	1	16	1	20	1
3 年	21	1	21	1	18	1	16	1
4 年	23	1	20	1	20	1	18	1
5 年	20	1	22	1	20	1	20	1
6 年	18	1	20	1	21	1	20	1
合 計	122	6	117	6	116	6	111	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
94	3	86	3	74	3
88	3	93	3	85	3
93	3	87	3	92	3
275	9	266	9	251	9

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
47	2
54	2
47	2
148	6

R22 (小)	
生徒数	学級数
38	2
35	1
36	1
109	4

R11 (小)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
27	1	40	2	32	1
37	2	27	1	41	2
32	1	38	2	27	1
32	1	32	1	39	2
38	2	32	1	32	1
40	2	39	2	32	1
206	9	208	9	203	8

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
16	1
19	1
17	1
15	1
13	1
96	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
20	1	12	1	11	1
13	1	20	1	12	1
16	1	13	1	20	1
23	1	16	1	13	1
21	1	23	1	16	1
27	1	21	1	23	1
120	6	105	6	95	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
12	1
13	1
10	1
13	1
8	1
66	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	19	1	16	1
17	1	12	1	19	1
20	1	17	1	12	1
16	1	20	1	17	1
18	1	16	1	20	1
20	1	18	1	16	1
103	6	102	6	100	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
9	1
10	1
10	1
11	1
8	1
7	1
55	6

イ 石尾台中学校区

(7) 石尾台中学校 ※R18から「小規模」になり、R22では「やや小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	110	4	103	3	100	3	100	3
2 年	112	3	110	3	103	3	100	3
3 年	115	3	112	3	110	3	103	3
合 計	337	10	325	9	313	9	303	9

(イ) 玉川小学校 ※R 9から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	25	1	21	1	25	1	19	1
2 年	25	1	25	1	21	1	25	1
3 年	33	1	25	1	25	1	21	1
4 年	27	1	33	1	25	1	25	1
5 年	46	2	27	1	33	1	25	1
6 年	39	2	46	2	27	1	33	1
合 計	195	8	177	7	156	6	148	6

(ウ) 石尾台小学校 ※「過小規模」で推移

学 年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	21	1	22	1	14	1	23	1
2 年	24	1	21	1	22	1	14	1
3 年	33	1	24	1	21	1	22	1
4 年	31	1	33	1	24	1	21	1
5 年	21	1	31	1	33	1	24	1
6 年	29	1	21	1	31	1	33	1
合 計	159	6	152	6	145	6	137	6

(イ) 押沢台小学校 ※R13から「過小規模」になると推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	36	2	25	1	29	1	27	1
2 年	21	1	37	2	26	1	30	1
3 年	38	2	22	1	38	2	27	1
4 年	35	1	39	2	23	1	39	2
5 年	25	1	36	2	40	2	24	1
6 年	32	1	26	1	37	2	41	2
合 計	187	8	185	9	193	9	188	8

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
108	4	76	3	84	3
100	3	108	3	76	2
100	3	100	3	108	3
308	10	284	9	268	8

R19 (小)	
生徒数	学級数
33	1
54	2
38	1
125	4

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
42	2
43	2
44	2
129	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
10	1	20	1	11	1
19	1	10	1	20	1
25	1	19	1	10	1
21	1	25	1	19	1
25	1	21	1	25	1
25	1	25	1	21	1
125	6	120	6	106	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
15	1
13	1
18	1
15	1
85	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	13	1	9	1
23	1	11	1	13	1
14	1	23	1	11	1
22	1	14	1	23	1
21	1	22	1	14	1
24	1	21	1	22	1
115	6	104	6	92	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
10	1
11	1
15	1
14	1
8	1
11	1
69	6

R11 (小)		R12 (小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
17	1	26	1	13	1
28	1	17	1	27	1
31	1	29	1	17	1
28	1	32	1	30	1
40	2	29	1	33	1
25	1	41	2	30	1
169	7	174	7	150	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
16	1
10	1
17	1
16	1
10	1
13	1
82	6

## ウ 岩成台中学校区

(7) 岩成台中学校 ※R19まで「やや小規模」で推移、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1 年	80	3	91	3	89	3	89	3
2 年	75	2	79	2	90	3	88	3
3 年	80	2	74	2	78	2	89	3
合 計	235	7	244	7	257	8	266	9

(イ) 岩成台小学校 ※R11から「過小規模」と推定

学 年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R10 (小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	27	1	30	1	31	1	30	1
2 年	35	1	27	1	30	1	31	1
3 年	38	2	35	1	27	1	30	1
4 年	33	1	38	2	35	1	27	1
5 年	38	2	33	1	38	2	35	1
6 年	30	1	38	2	33	1	38	2
合 計	201	8	201	8	194	7	191	7

(ウ) 岩成台西小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	50	2	42	2	42	2	37	2
2 年	38	2	50	2	42	2	42	2
3 年	51	2	38	2	50	2	42	2
4 年	58	2	51	2	38	2	50	2
5 年	46	2	59	2	51	2	38	2
6 年	52	2	46	2	60	2	51	2
合 計	295	12	286	12	283	12	260	12

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (やや小)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
92	3	70	2	76	3
88	3	91	3	69	2
87	3	87	3	90	3
267	9	248	8	235	8

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
37	2
54	2
57	2
148	6

R22 (過小)	
生徒数	学級数
31	1
29	1
31	1
91	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
29	1	26	1	17	1
30	1	29	1	26	1
31	1	30	1	29	1
30	1	31	1	30	1
27	1	30	1	31	1
35	1	27	1	30	1
182	6	173	6	163	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
11	1
14	1
15	1
13	1
15	1
12	1
80	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
37	2	28	1	20	1
37	2	37	2	28	1
42	2	37	2	37	2
42	2	42	2	37	2
50	2	42	2	42	2
38	2	50	2	42	2
246	12	236	11	206	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
20	1
15	1
21	1
23	1
19	1
21	1
119	6

## 2 高蔵寺ニュータウン地区 学校区図

